

新潟県

平成元年

# 公民館月報

8月  
第438号

シリーズ 生涯学習の推進と公民館(3)

実践事例 水原町の「生涯教育目標づくり」



広川 青五

「'83人物」 1983年作

145.5×80.5cm

テキスタイル

新潟県美術博物館所蔵

ファッションショーの舞台だろうか。いっぱい光を浴び、軽やかなリズムに乗ってモデル達が登場する。一瞬、そこには涼やかな一陣の風が吹きぬける。軽快で透明感を感じさせる作品である。一見絵画のように見えるが、染色から生まれた作品。広川青五(1928～)は三条市出身。テキスタイル(織物)による造形の可能性を追求している作家である。

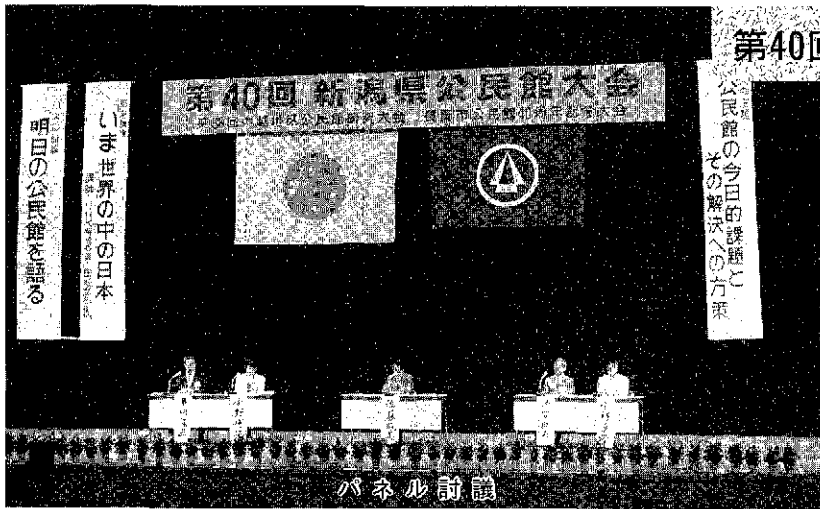
# 第40回新潟県公民館大会

## 節目を記念した大会

# 昔・今・そして未来を考える

## 長岡市市立劇場を会場に

去る七月七日(金)、長岡市市立劇場を会場に、第四十回新潟県公民館大会が開催された。



四十四回大会と

いう記念の趣向と、地理的に県中央部というこどももあつてか、八百名を超える参加者を得てきわめて盛大な大会となった。

午前十時開会。長岡市中央公民館利用サークル「雪」の皆さんによる「公民館の歌」の合唱の間に開会の幕が上げられた。

開会式・表彰式のセレモニーのあと、パネル討論に移る。主題を「明日の公民館を語る」におき、佐藤威美氏(川西町下手

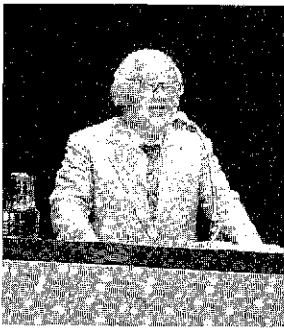
小学校長)の手なれた司会により、四人のパネラーが意見を発した。

多田隆三氏(長岡市子ども会連絡協議会理事)は、子ども会振興の立場から、公民館は子ども会活動への支援や、学社連携の仲立ちをと主張した。小野庸子氏(川口町木沢小学

### 記念講演

## 地域の特性を生かせ!

NHK解説委員の田畑彦右衛門氏は、「いま、世界の中の日本」と題する講演で、全参加者に深い感銘を与えた。



校教頭)は、自からの陶芸教室の実践を事例に、その地域にできるものを探すこと、そして、人と人とのつながりを大切にす活動をと主張。

徳間助夫氏(元柏崎市中央公民館事務長)は、職員の上気と資質こそ公民館の生命であると訴えていられた。

小林貞子氏(長岡市市民税課係長)は、専門職員としての研修の重要性、とりわけ女性職員の専門職としての資質の充実を、主張された。

午後は、NHK解説委員田畑彦右衛門氏による「いま、世界の中の日本」と題する記念講演。

氏の流暢な語り口に魅せられるように聴講した。

閉会式では、次期開催地の紹介。主管を引き受けた西蒲・燕地区公連の副会長高橋石男氏(黒崎町公民館長)のあいさつ、並びに、次期会場地となる燕市中央公民館長高橋宏氏へ、長岡市中央公民館長平沢三春氏から大会旗の引継ぎがなされ、大会行事の総てを終了した。

大会資料で「昔」を偲び、記念講演で「今」を考え、そしてパネル討議で「未来」を語るように趣向をこらした記念大会の幕をとじた。

経済・文化への依存や模倣からの独立、また、三世代の価値観を相互に認め(尊重)つつ相互の調和を求めらるることにある。

そのためには、地域の特性を生かした、地域づくりが必要。公民館は、地元住民の意志を反映した、地域の実情にあった、地域づくりをすること、その視点は、地元の産業と教育のネットワーク化を図ることにある。公民館・図書館・博物館といった三点だけでなく、駅・ショッピングセンター・病院・銀行・農協等々人々の集る施設のネットワーク化を広げよう、視野を広げることではなからうか。

# 新潟県公民館振興市町村長連盟総会開催

## 新会長に伊豆野壹郎氏 (両津)

### 副会長は 小近 野正毅氏 (町青)

去る七月四日(火)、新潟市白山会館を会場に、県公民館振興市町村長連盟の平成元年度定例総会が開催された。

来賓には、県教育委員会から

山本社会教育課長補佐・関社会教育主事ならびに本会の木下會長・遠藤・平沢副会長が臨席、

報告と歳入歳出決算報告、並びに平成元年度の事業計画と歳入歳出予算の順に審議され、い

り議事が進められた。

情報化・

### 辛口

余暇化は農村型社会から都市型社会への移行の中から生じた「より効率性を求める価値観」と「より快適性を望む意識」が背景となっています。そして、所得水準の向上によりライフ・スタイルにおいても「余暇」を重要視

する人々が多くなり、最近では「物の豊かさから心の豊かさ(人生の充実感)」が求められるようになりました。

このような時代の背景のもとで昭和六十二年臨教審の最終答申で、教育改革の視点と

習推進センターとしてその役割に期待するといふ相反する説があります。

の運用をはかることが難しくなってきたという局面もあります。

こうした社会的情勢のなか、公民館は地域の課題と特性を生かしつつ、住民の自主的な学習活動を促進し、地域の連帯意識を呼び起こし、明るい家庭、住みよい社会を形成する

住民の広場としての役割と「生涯学習体系への移行」を結びつけた新たな活動の展開が求められているのではないのでしょうか。

### 生涯学習と公民館の役割

豊栄市長 小川 竹二

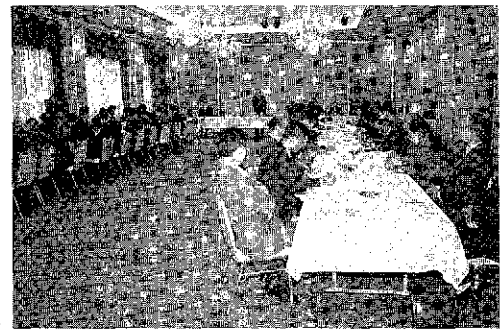
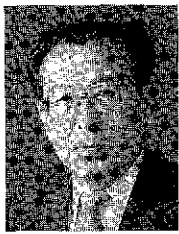
この生涯学習を推進する状況のなかで、公民館を中核とする社会教育行政は終わったといふ説と、今後は生涯学

業を展開し、行政全般に多大な貢献をしてまいりました。

ただ近年は、社会構造の急速な転換にともなう住民意識の多様化、複雑化が進み、社会教育行政だけで事業

新たな課題に向って奮起を期待いたします。

(県公振連 理事)



ご尽力により、百十二市町村長の加盟(100%)を実現したことである。また、②生涯学習推進の基盤整備の一つとして、県立施設(生涯教育センター)の早期実現について知事陳情を行ったことである。

続いて、議事は役員改選に移る。先に理事会で相談した推薦案を満場一致で可決選任した。新役員は名簿のとおりである。今年度事業計画の目玉は、昨年度に引き続いて、生涯教育センター(仮称)の早期実現に向けての陳情を行うこととしている。このため、伊豆野新会長は、説得力のある資料づくりを急ぐ必要がある、県公民館連合会の英知を提供してほしいと語っていた。

### 平成元年度

#### 新潟県公民館振興市町村長連盟役員名簿

会長	両津市長	伊豆野 壹郎
副会長	新発田市長	近 寅 寅彦
副会長	青海町長	小 野 正毅
理事	豊栄市長	小川 竹二
理事	中条町長	板倉 信夫
理事	山北町長	板垣 実弘
理事	小千谷市長	小出 淵二
理事	堀之内町長	大南 靖春
理事	川西町長	大南 久右
理事	新井市長	大木 治郎
理事	糸魚川市長	長谷 敏男
理事	松代町長	関 谷 野山
理事	村松町長	関 谷 野山
監事	中之島町長	関 谷 野山

### 事例紹介に移る前に

シリーズ「生涯学習の推進と公民館」は、今回から実践事例の紹介に移る。

いま、県内の公民館では、生涯学習体系への移行を課題にした教育行政の中であって、試行錯誤の取り組みがなされているのが現状である。

そして、その取り組みには、二つの特徴的な傾向が見られるようである。その一つは、生涯学習の理念の浸透とあいまって新規の事業を増やし、ことさらに目新しさを追い求めようとするタイプ。もう一つは、これと

# 進と公民館 (3) 教育目標づくり

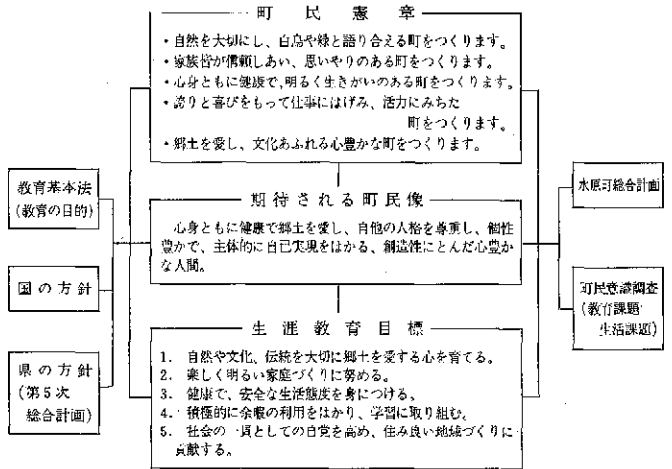
は反対に、時流に流されずとして、「生涯学習」を理念として受けとめ、これまでの公民館事業・学習プログラムで十分(?)なのだとするタイプである。このどちらにも問題がありそうである。というのは、前号の吉川論文にあるように、「現行の教育体制は縦割りである。そしてよくいわれるように重複と欠落が多い」と指摘している。その「重複と欠落」を調整することが、生涯学習体制を整備する要諦である。

ここに紹介する六市町村の補助事業には、必須の要件として「生涯学習推進会議の設置」が義務付けられているが、その意味するところは、「重複と欠落」の調整が必要だからであろう。したがって、事例紹介に当たって、当該六市町村の「生涯学習推進本部」「生涯学習推進会議」などの構成や役割の紹介から始めるのが順序であろうが、主体が行政の仕事であること、多くは県生涯教育推進会議における「生涯教育推進基本構想」に示されたものに拠っているの、ここでは割愛する。

それにしても、水原町の「生涯教育目標づくり」は、生涯学習推進のまちづくりの根幹となる部分なので、これだけは取り上げ紹介することにした。

〔表1〕

#### 1. 水原町の生涯教育目標体系



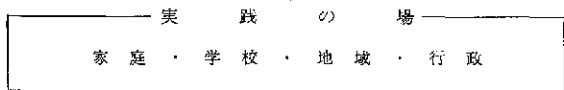
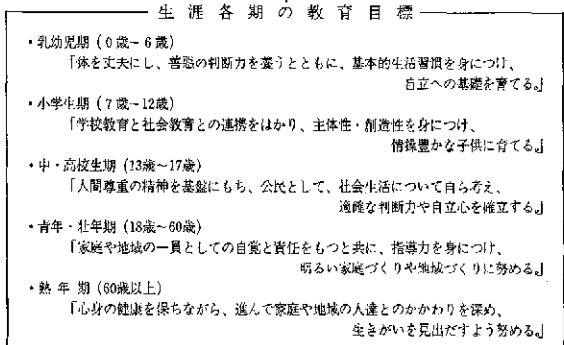
### 水原町の「生涯教育目標づくり」について

水原町では、このたびの補助事業に取り組む前から、つまり昭和六十一年度に、町長自ら「生涯教育の理念に基づく町政の運営」を掲げて以来、生涯学習推進の基盤整備に当たり、町づくり・人づくりの根幹に町民憲章を据え、「教育目標」を据えて、目標達成にせまる生涯学習活動が必要として「生涯教育目標づくり」に取り組んできた。そして、昭和六十三年度までの三年間を費やして「水原町の生涯教育

目標」が策定された、その経過と内容の一部について紹介する。

生涯教育目標の策定にあたって、町内の各層から四十名の「生涯教育推進委員」を委嘱し、町民の手作りによる教育目標の策定を目指した。

推進委員には、それぞれ、家庭・学校・地域社会の三部会に分かれ、生涯教育に関する町民意識調査を実施し、その結果をふまえて、地域課題や教育課題を



検討整理し、生涯教育(学習)目標の設定へと作業をすすめた。そのまとめは、大きく三つからなっている。

①水原町生涯教育(学習)の基本構想及び生涯各期にわたる教育(学習)目標。

②生涯教育目標の実践(家庭・学校・地域社会・行政の各分野における実践例)。

③実践プログラムの開発についての基本的な考え方。

さらに、生涯各期の目標については、乳幼児期、小学生期、

# シリーズ 生涯学習の推進

## 実践事例 水原町の「生涯」

中・高校生期、青年期、壮年期、熟年期に細分し、  
 ①自然・文化の伝統の尊重、  
 ②明るい家庭づくり、  
 ③健康で安全な生活、  
 ④生きがいのある生活、  
 ⑤住みよい地域社会の五つの柱だてにより、目標をより具体的な達成目標にしている。(表2参照)

平成元年度はこの生涯教育目標に基づいて、学習プログラムの作成に取り組み。原案は社会教育課で作成し、関係部課で実施している教育的事業とつぎ合わせて、事業の重複と欠落の調整をすることになっている。

表2 生涯各期にわたる教育(学習)目標一覧表

町民意識	教育の目標	乳幼児期 (0歳～6歳)	小学生期 (7歳～12歳)	中学生期 (13歳～15歳)	高校生期 (16歳～18歳)	青年期 (19歳～30歳)	壮年期 (31歳～60歳)	熟年期 (60歳～)	内容		
1 自然・文化の尊重	自然・文化の尊重	1-1 P1	P17	1-2 P44	P44	1-3 P73		P73	自然の保護・環境の保全		
		①自然に親しみ自然や動植物に関心を持とう		①自然の自然を愛し自然や動植物を保護しよう		①自然を大切にし、調和のとれた自然環境につとめよう					
		1-4 P2	1-5 P18	1-5 P45	P45	1-6 P74		P74	伝統文化の継承		
		①郷土の暮らしに親しもう	①郷土の文化・歴史を学び、郷土を愛する心を育てよう		①郷土の文化や伝統を大切にし、郷土を愛する心を育てよう						
		2 明るい家庭づくり	家庭・家族の役割・協力	2-1 P19	2-1 P46	2-2 P75		2-2 P75		P75	家庭・家族の役割・協力
				①近んで家族との対話を深めよう		①子や孫と進んで対話し心のふれあいを深めよう					
				2-3 P3		2-4 P47		2-5 P76		P76	健康で安全な生活
				①新しい家庭の扉を開けよう		①男女の正しい交際の仕方と身につけよう		①結婚の意義とよき縁となる家庭生活を営もう			
						2-7 P48		2-6 P77		P77	健康で安全な生活
						①結婚・通学や授業の生き方について親子で話し合い実現に向けて取り組もう		①良い風習を受け継ぎ健全な家庭を築こう			
		3 健康で安全な	健康・安全	3-1 P8	3-2 P28	3-3 P59		3-4 P88		P88	健康・安全
				①健康でいろいろな運動を楽しもう		①積極的にスポーツに取り組み気力体力を上げよう		①余暇を利用して、スポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加し健康の増進をはかろう			
3-5 P9	3-6 P31			3-6 P80		3-7 P90		P90	健康・安全		
①好き嫌いなく何でも食べよう				①偏食を無くしバランスの取れた食生活をしよう		①健康と食物との関係を知り、より良い食生活につとめよう					
3-8 P10	3-9 P32			3-9 P61		3-10 P81		P81	健康・安全		
①正しい歩き方や安全な道の方をしよう				①交通ルールを守り危険防止につとめよう		①自分の健康は自分で管理しよう					

### 事例紹介の視点

1 生涯学習の基盤整備は地域づくりから

シリーズ(1)の吉川論文によると「生涯学習社会の基盤整備は、生涯学習を進める地域づくりから」と中教審答申を引用して解説している。この論をうけて、公民館の原点もまたここにあることを踏まえ、地域の特性を生かした魅力や活力のある「地域づくり」のための事業に視点をおくことにした。

2 中央公民館を学習サービスセンターとして

県生涯教育推進会議による「県生涯教育推進基本構想」により、中央公民館の役割を市町村の学習サービスセンターと受けとめ、①学習機会の提供、②学習情報の収集・提供、③団体及びグループ・サークルの援助、④個人学習の援助、⑤学習の啓発、の五つの視点から取り上げることにした。

3 欠落部分の補充を中心として

冒頭にふれたように、「推進会議」や「プログラム開発委員会」等で作られた「重複と欠落」の調整の結果としての「欠落部分の補充」に視点を置いた。

寺 泊 町 公 民 館

実践記録シリーズ

チビツ子の歓声でにぎわった

わくわくさかなランド

寺泊水族博物館と共催で

一、はじめに

海の町「寺泊」は、年間を通して県内はもとより全国からの大勢の観光客でにぎわっている。特に夏季は、海水浴客や新鮮な魚を求めてやってくる人達で大変

なにごわいを見せ、その数は200万人とも言われている。海の水族博物館は、旧水族館が古くなったため昭和58年に新しく開館したもので建物は海の中に建てられていて、海上4階建てで、大小あわせて80本近くの水槽がある。その中に約40種類1万尾の魚やカニなどが飼育されている。

二、さかなランドのねらい

このような県内でも数少ない水族博物館を社会教育施設として有効に活用することと海の町の子供達に、もっと魚や海の生物に親しんでもらおうと、昨年度から「おもしろ水族館講座」を開設している。

講座生募集等、講座開設

の諸準備に公民館が当たり、水族博物館は、実際の講座の指導に当たる等、共催という形での開催である。

今年度は、名称をより親しみやすい「わくわくさかなランド」に改め、子供達にとっても楽しい講座として定着しつつある。

三、さかなランドの活動

今年度は、5月の連休明けに開講した。今回参加したのは、寺泊小学校の3・4年生の希望者66名で、5月8・9日の2日間、学校の放課後に触れ合い体験学習を行った。

体重が10キロもあるアカウミガメやアオウミガメ、それに体長40センチ程に成長した飼育2年日のサケの子にやるべき作りに、チビツ子たちが挑戦した。イカやホッケの切り方を博物館職員に教わりながら慣れない手つきでえさ作りに汗を流した。

ウミガメが近づいてくると大

わくわくさかなランド  
寺泊町公民館 寺泊水族博物館  
◎ 学習プログラム

回	開催日	学習テーマ	主な内容	講師
1	5/8 (月)	水族館内めぐり、ウミガメと上手	水産物のしくみ、ウミガメの飼育方法、ウミガメのえさ作り体験	博物館職員
2	5/9 (火)	魚の生態と友達になる	魚のえさ作りとえさ作り体験、ヒトデ、スズメダイに触れてみよう	
3	8/21 (月)	岩別城・世界のウミガメ	世界のウミガメの仲間を知る	
4	8/22 (火)	ウミガメの飼育体験、海産物の観察他	ウミガメのえさ作りと飼育体験、珍しい魚の生態を知る	
5	8/24 (木)	エビ・ササエの仲間	エビ・ササエの仲間を知る	
6	8/25 (金)	海に生る生物の仲間を知る	ペンギン、アザラシ等の生態を知る	

きな歓声を上げながら、自分切ったイカを手で与えたり、甲らに触れすつかりウミガメと友達になった。また、サケの子にホッケの切り身を与える、数百尾のサケが銀色に光りながら元気よくえさを食べ、チビツ子たちを喜ばせた。屋上の学習水槽前では、ナマコやヒトデ、カニに恐る恐る手で触れる姿が見られ、にぎやかな歓声が上がっていた。

また、普段目にするのできない裏側の設備も見学し、各水槽に空気を送り込んでいるブロー室、一年中各水槽の水温を一定に保つクーラーやボイラー、魚の排泄物をきれいにするろ過槽などの仕組みもしっかり勉強していた。

四、おわりに

受講後の感想として「サケや

ウミガメにえさをやった時、楽しかった。」という声、ほとんどの子供から聞かれた。ただ水槽の魚を見るだけでなく、実際に身体を動かす体験学習は、子供達に好評である。夏休みにはカモメの餌付け体験も計画されている。学校ではできない生の学習ができる点で、当講座は、学社連携の役目も果たしているのではなからうか。

当講座での学習を通して、子供達が、海の生物に興味・関心を示した点で成果があった。今後は、継続的な研究や水族博物館の周辺に住む生物(貝や海藻等)についても、焦点を絞りにながら講座の内容に取り入れていきたいと考えている。

(寺泊町教育委員会 派遣社教主事 小暮哲郎記)



ウミガメにえさやり体験

# 職員研修要項固まる

## 期日は11月14・15日に変更

当連合会三大事業の一つ「公民館職員研修会」の要項がまるとり、近く各市町村公民館に募集要項を配布する予定。

期日は十一月十四・十五日の一泊二日で、当初の予定より一日繰り上げられることになった。また、研修会場も、サン・

ローラ川口(北魚川町)という県建設労働者研修福祉施設で実施される。

今年度の研修内容は、左表のとおり。コース別研修とし、受講者が、いま最も困っている問題解決に役立つ研修にする予定。受講申込みの際に、レポー

トにより、その点を明らかにして申し込むことになっている。したがって、少なくとも一年以上の経験ある者でないといふ無理である。指導講師はいずれも公民館実務に詳しいベテラン講師陣で適切な指導が得られる。

一泊二日全員宿泊研修を原則とし、夜の情報交換では、県内各地から参集した受講者の心の交流が大いに期待される。経費は八千円(一泊四食・情報交換書・研修資費すべてを含む)

### 公民館職員研修計画

#### 1. 研修内容与方法

- コース別研修とし、申し込み時に希望をとる。
- 事前にレポートを提出することとし、研修方法は「協議会」の性格とする。

#### 2. 研修コース

コース	取り上げる内容	担当講師
① 集会・行事の持ち方とその問題	・年中行事 ・文化祭や公民館まつり ・スポーツの大会等行事 ・講演会等の開催計画と問題について	関
② 集会学習の問題	・学級・講座等に関する企画・運営等の問題について	徳 間
③ 団体・グループ育成の問題	・地域団体・青年団・地域婦人会・自主グループ・ボランティア等の育成や関わり方と問題について	伊 田
④ 管理・事務についての問題	・施設提供・予算・職員研修・勤務形態・運営審議会等の問題について	田 村
⑤ 個人学習の問題	・学習相談 ・学習情報(展示・広報)提供等の問題について	希望者が少ない場合開設せず
全体	吉川教授 全体指導 冒頭講義=公民館職員のあり方と本研修に期待すること 部会研修=随時各部会巡回指導 集約講義=部会報告をもとにしたのまとめの講義	

⑤「個人学習の問題」コースは、希望者があれば開設する。

#### 村松町公民館主事

山崎 淳氏 (33歳)



山崎さんのインタビューしたのは、十周年記念の公民館祭の最後のイベントの時だったから、三月初旬で、福祉課から異動して一年が経つころだった。

「何しろ、始めての職場で、六月には、公民館祭の企画の仕事が待っていました。どうしていいのかわかりませんでした。ただ館長さんの指導とおりで夢中で過ごしてきました」と。

は、「たしかに着任早々の大仕事で、戸惑いも大きかったと思う。しかし、よくやってくれましたよ。関係団体との接渉、グループ・サークルへの助言など実に立派、おそらく三年分の体験をしただろう」と目を細めて賞讃していた。なるほど、その故が一挙一動に自信のほどがうかがわれる。

今年度は二年目、成人教育や少年教育にじっくり取り組みたい、研修もしたい、と話してくれていたが、あれから五か月、また、ひとまわり大きくなっていくことだろう。(上村記)

### 素顔拝見

長岡市中央公民館成人教育係 主任 梶山 寿枝さん (46歳)

このたびの県公民館大会の会場、つまり長岡市立劇場の館内の隅々まで響きわたる美しい声で、進行係を危なげなくつとめていた方がこの梶山さん。

まだ、公民館の経験一年少々の人とは思えない落ち着きと、手慣れた大会進行の円滑さに驚かされたのだが、それもそのはず、彼女の履歴は、長岡市にしかない行政サービス機関「レクリエーション課」の職員だったという。そして、スポーツを主としたレクリエーションと取り



組んでこられた方だという。それでようやくやく腑に落ちた。

現在は成人教育のうち、婦人教育・家庭教育を担当しているという。木宮課長補佐の言によると、「竹を割ったようなきつぱりとした性格なので、同輩の婦人受講者を相手にしていても、年生らしくはない堂々とした態度で応待しており、受講者の信頼も厚い」という。

今後のより一層の活躍をお祈りする。(上村記)



期	月・日	曜	時間	会場	講師名(内容)	講師名
1	9.16	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・開 演 式 ・21世紀に向けて 高齢化社会の展開とその課題 —シルバークレジット—	新潟大学教授 平井 孝
2	9.20	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・生涯学習の必要性について —今、高齢者学習が問われる のか—	新潟県立大学教授 浅 安 康 二
3	10. 7	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・高齢者の身体と健康について	新潟県立大学 菅 井 久 司
4	10.13	金	午後 1:30~ 4:30	県庁 大会議室 (28席)	・高齢化社会に生きる、地域での 「仲間づくり」を考える	新潟県立大学 高 橋 ハ ナ
5	10.21	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・「高齢者のニーズ」と「グルー プ活動」について —現象と意味を捉えて—	新潟大学教授 吉 川 弘
6	10.27	金	午後 1:30~ 4:30	県庁 大会議室 (28席)	・「老人と家族」「生きがいと死 にたい」について	新潟県立大学 山 中 浩 幸
7	11. 4	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・高齢者の学習と実践 ボランティア活動について	新潟大学教授 公 田 彰
8	11.10	金	午後 1:30~ 4:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・「高齢者」世界の流れ	新潟大学教授 多 賀 秀 敏
9	11.18	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・高齢者の学習と実践 高齢者の悩みを聞く	新潟大学教授 文 藤 弘
10	12. 2	土	午前 9:30~ 12:30	県庁 会議室 1602 (18席)	・総合シンポジウム —シルバークレジット— ・閉 演 式	新潟大学教授 平 井 孝

# シルバークレジットで学ぼう

## 五十五歳以上なら誰でもOK

### 新潟県・県教委主催 生涯学習フォーラム 開催案内

生涯学習の意義・必要性を広く啓発するために、新潟県・県教委の主催で「新潟生涯学習フォーラム」を開催する。

県民会館を会場に、大ホールではパネルフォーラムや記念講演を、会議室や展示ホールではトライコーナークラスやイスコープなどが用意される。

由、奮っての参加をおすすめします。

期日 八月二十五日 (金)

会場 新潟県民会館  
対象 市町村長、社会教育関係者はもちろん、関心ある人なら誰でも結構です。  
(内容は下表参照)

大ホール	会議室1・2・3、展示ホール
映画「とびうお物語」 10:00~12:00 受付(玄關) 12:00~12:30 開会行事 12:30~12:50 パネルフォーラム 12:50~14:45 「必化の時代を生きる」 コーディネーター 古川 弘 (新潟大学教授) パネラー 石川チエコ (前新潟日報学芸部長) 矢野 学 (安塚町長) 中野 滋 (県社会教育協会主幹) 辻田慈彦 (新潟県立計算詳専門 学校長)	トライコーナークラス 9:30~15:00 「ニューメディアに関する展示演説」 アイ・スコープ 9:30~15:00 (自主制作ビデオ) 「映像で見る生涯学習まちづくり」 県内・県外の生涯学習まちづくりの先進地をビデオで紹介する。 主な収録内容 県内 新井市 よみがえった「まびだんご」 長岡市「ふるさと塾」 関川村「ふるさと塾」 県外 兵庫県立須野台生涯学習センター「生涯学習施設めぐり」 兵庫県神戸市「生涯学習まちづくり」 事例編
チューター 黒羽亮 (筑波大学教授・ 協賛者専門委員)	
記念講演 15:00~16:30 古橋広之進 日本水泳連盟会長	

県教育委員会では、シルバークレジットを社会に生かそうと「シルバークレジット89」を開設する。指導者養成がねらいで、十回継続的に学習するのがこの講座の特色である。募集人員は百人希望者は早く申込まれたい。

期間 平成元年9月16日から12月2日までの十曜と金曜。

土曜は午前、金曜は午後。

会場 県庁会議室

対象 55歳以上の中・高齢者

募集人数 百人、原則として、全回を通して出席すること。

申込み方法  
(1)締切日 平成元年9月5日  
(2)申込先 新潟県教育庁社会教育課

(往信の表)

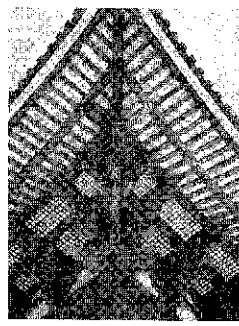
育課(〒950) 新潟市新光町四一)

(3)申込方法 往復はがきに、下記の様式で必要事項を記入の上申し込まれたい。

シルバークレジット申込み書

一、氏名 年 齢  
現住所 電 話  
二、勤務先 電 話  
(ある場合のみ記入)

返信用の宛先を明記してください  
(あなたの住所)



歴史の心・日本の形を撮る  
写真家・渡辺義雄展  
七月二十九日~九月三日  
新潟県美術館

三条市出身の写真家・渡辺義雄(一九〇七年)の写真展が、いま、新潟県美術館で開かれています。

長く日本写真家協会会長としてわが国写真界のリーダーをつとめる一方、多年にわたって多くの後進を育てあげた渡辺義雄の業績を、約二百名の代表作を通じて紹介している。

観覧料 一般・大学生 五百円  
小中高校生 二百円  
二十名以上 団体割引

発行所 新潟県公民館連合会  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清  
編集人 事務局長 上村 捨一郎  
【定価1部120円 年共1,440円】

◇格別に暑さを感じる夏です。学校が暑中休暇中なので、子ども対象の事業が多いと思います。夏バテしないように祈ります。

◇紙幅の都合で「続公民館日記」は休みました。(上村記)